



10月9日に伊勢市で開催された「全国過疎問題シンポジウム2014」で、島の旅社推進協議会が、過疎地域自立活性化優良事例として総務大臣賞を受賞しました。家々での漁業の営みを大切にして、島の良さ・生活空間を楽しんでもらえる規模に留めているところ、島全体が一丸となっていることなどが地域振興に貢献していると高く評価され、受賞に至りました。

翌10日には、答志島で分科会が開かれ、優良事例の発表や意見交換、島の現地視察が行われました。

「島の旅社」が総務大臣賞を受賞



10月3日、市民文化会館で鳥羽市老人クラブ連合会の創立50周年記念大会が開催されました。

大会では、老人クラブ活動と事業運営に貢献されたかた8人に木田市長から感謝状と記念品が贈られました。また「パールライフ鳥羽」という老人クラブの愛称が発表され、会長の小林千代太郎さんは「あらゆる機会にこの愛称を使い、老人クラブのイメージアップを図りたい」とあいさつしました。

市老連50周年記念大会



畔蛸町の岩がきが、10月2日に県が認定する「三重ブランド」に登録されました。

地域を活性化させるため、他にはないものを作れないかと平成11年から研究を始め、4～5年かかり商品化へたどり着きました。現在は、年間25トンの水揚げがあり、東京の築地市場では高い評価を得ています。

登録後、的矢湾あだこ岩がき協同組合のみなさんが市長室を訪れ、代表理事の上野善幸さんは「三重ブランド認定をきっかけに、もっと地元で動きが出てくれればありがたい」と話してくれました。木田市長は「どんどん前に出して、畔蛸の岩がきをもっと有名にしてほしい」と激励しました。

「あだこの岩がき」三重ブランド認定



10月9日、市農業委員会から市内の保育所に新米が贈呈されました。

贈呈されたお米は、5kg×16袋の計80kgで、市内の保育所を代表しておおぞら保育所の5歳児に手渡しされました。お米をもらった園児たちは「いっぱい食べて、大きくなるぞー」と力強く大きな声で感謝の気持ちを伝えました。

いただいたお米は、栗ごはんやタケノコごはんなど、イベントの時に使われます。

鳥羽のお米で大きくなあれ!